

駿建 2019 Jul. vol.47 No.2

日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科

SHUNKEN

Quarterly Journal of

Department of Architecture, College of Science and Technology, Nihon University
& Department of Architecture and Living Design, Nihon University Junior College

SPECIAL FEATURE

A close-up photograph of a squirrel with grey and brown fur, sitting on a dark surface and holding a nut in its paws. The squirrel is looking directly at the camera with its mouth slightly open. The background is a soft, out-of-focus green.

食

まちを楽しみ
食を楽しむ

ま

ち

を

楽

し

み



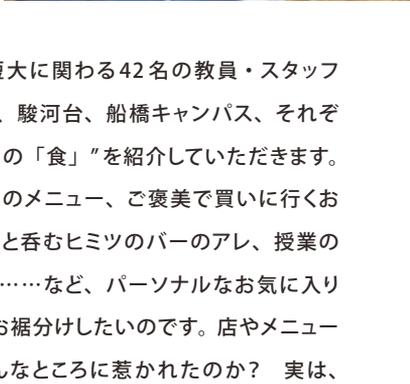
SPECIAL FEATURE

食

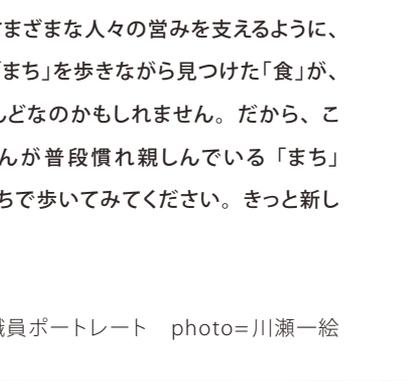
まちを楽しみ
食を楽しむ



今回の特集では、理工、短大に関わる42名の教員・スタッフが誌面に登場し、皆さんに、駿河台、船橋キャンパス、それぞれの周辺にある“お気に入りの「食」”を紹介していきます。ランチ時によく行くお店のあのメニュー、ご褒美で買いに行くお店のあのスイーツ、しっとり香むヒミツのバーのアレ、授業の合間に行く喫茶店の居心地……など、パーソナルなお気に入りのお店を、学生の皆さんにお裾分けしたいのです。店やメニューと先生方との関係は？ どんどころに惹かれたのか？ 実は、それぞれの「まち」に棲むさまざまな人々の営みを支えるように、「食」はあるものです。きっと「まち」を歩きながら見つけた「食」が、紹介されているもののほとんどなのかもしれません。だから、これをきっかけに、今、皆さんが普段慣れ親しんでいる「まち」を食べながら、新鮮な気持ちで歩いてみてください。きっと新しい発見があるはずです。



建築学科教職員ポートレート photo=川瀬一絵



Special Feature

SHUNKEN 2015

Vol.47 no.2

002

神田駿河台1丁目**1号館カフェテリア | クオリティータイム****宇於崎勝也（うおさき・かつや）教授**

ほ ぼ毎日、昼食はここ。昼休みには学生・教職員のみならず、近所のビジネスマンも加わって長蛇の列になります。私はなるべく混む時間を外して食べています。

メニューは「日替わり肉、日替わり魚、丼、パスタ、理工ランチ（週替り）」の5種と、カレーライス、ハヤシライス、アベックライス（カレーとハヤシの合いがけ）とあまり多くはありませんが、おいしくてボリュームもあり、学食として満足できるものです。私のお気に入りにはパスタで、ソースが毎日変わるために飽きることもありません。ただ、苦手なソースもあって、その日はアベックライス。昔、某雑誌で紹介された際に、「アベックっていつの時代？」と書かれてましたが、カレーとハヤシの両方が味わえる優れたものです。名前ではなく、味で勝負。駿河台キャンパスは周囲に飲食店がたくさんありますが、たまには友人と「学食」も良いと思います。

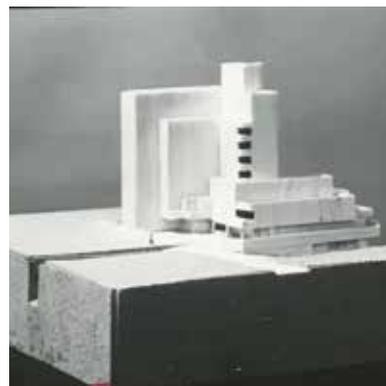


駿河台校舎1号館2階の南側にあるカフェテリア。

神田駿河台1丁目**バー | ノンノン****今村雅樹（いまむら・まさき）特任教授**

今 から40年ほど前、大学院生時代に恩師の宮川英二先生から、「山の上ホテル」改築計画のための模型をつくるように頼まれました。バルサで3つぐらいつくったの

ですが、そのときにはじめてこのバーでパーボン酒を飲みました。連れて行ってくれたのは、その当時、卒業論文でお世話になった「心理学」の先生です。学生同士の会話ではなく、大人の会話と酒に酔って、すでに一人前の建築家になったような錯覚に陥ったのを覚えています。先日、後輩の建築家と院生1人を連れて夜遅くに行ったのですが、現在、改修工事中で入ることができず、残念でした。今年12月には営業再開。最近では、本当にたまにしか行きませんが、ここに限らずバーでの酒はジンのタンカレー。



40年前の「山の上ホテル改築計画」のバルサ模型。

神田駿河台1丁目**ワインバー | モンカーヴ****古橋剛（ふるはし・たけし）教授**

お 茶の水の小さい高いところにある、歴史あるホテルの地下2階にあるワインバー「モンカーヴ」です。戦後間もないオープン時は会員制としてスタートし、多くの

文人に愛された店とのこと。葡萄をデザインしたステンドグラスの扉を開くと、リラックスした空気にふわりと包み込まれます。アーリーアメリカン調のインテリア、テーブルや椅子は、どっしりとしたパイン材からなり、重厚感を感じさせます。床はコルク。シャンデリアも木造りで、あたたかみを感じさせます。東京、そしてお茶の水の歴史を感じさせるおしゃれな店内で、高級感漂う料理と世界のワインが楽しめます。学生さんにはちょっと敷居が高いかもしれませんが、大人になったら一度いかがでしょうか？



建物裏手でほとんど目立たない、葡萄をデザインしたステンドグラスの木製ドアが入口。

神田駿河台2丁目**中華料理 | 山田屋****中島肇（なかじま・はじめ）教授**

お いしくて安くボリューム満点。昔ながらの中華料理店を紹介します。40年ほど前、私が学生の頃から「山田屋」によく通いました。「肉野菜炒め定食（¥670）」

は、量も味も若者におすすめです。私は小ライス（¥620）で十分です。名前のとおり、野菜たっぷりの中に豚肉が程好く入った逸品です。「タンメン（¥670）」は、野菜たっぷりの昔ながらの懐かしい、さっぱりとした味わいが最高です。さらに、「上海麺（¥700）」はしょう油味が香ばしい一品で、ときどき無性に食べたくなります。他にもおいしい料理はたくさんありますが、私はこれらの3品が好きです。最後に、財布に余裕のあるときにぜひ挑戦してほしいのが「五目焼きそば（¥800）」です。この店の麺類の中で最も高い料理です。この館かけ焼きそばは、味もさることながらボリュームがすごい！食べても食べてもなかなか減りません。挑戦してみてください。（注意：まず、食券を買います。）



創業70年の「山田屋」。1号館をJRお茶の水駅方向へ上り、丸善お茶の水店の手前左側にある。

神田駿河台3丁目

イタリアン | イル プルチーノ

佐藤智子 (さとう・ともこ) 職員



イ タリア北西部のピエモンテ州で修業されたシェフと、ソムリエの女性お2人で
 されているお店で、ランチは週変わりパスタランチ1種のみ。そのため、メニュー
 を選んだりすることがなく、席に案内されたらすぐ料理が出てきます。まずは3種の前菜。それぞれ量は多くはありませんが、1品1品違う味が楽しめます。パスタは、いつも熱々のものが出てきて、特に私のお気に入り「ポロネーゼ」です。たっぷりめの粉チーズとソースの絶妙な絡み具合が、何とも言えません。そして、食後のカプチーノで終了。私はまだ食べたことがありませんが、プラス200円で、ランチドルチェも付けられます。また、毎月イタリア各地のお料理教室やワイン会などが開かれていて、食事以外でも楽しめます。今では、「今週のパスタは何かな〜?」と、店先に出ているメニューボードを確認するのが楽しみになっています。



以前は淡路町駅に程近い地下で営業していた、昨年9月から、全電通労働会館1階に移転しました。

神田駿河台3丁目

創作料理 | RESTAURANT 1899 OCHANOMIZU

山中新太郎 (やまなか・しんたろう) 教授



本 郷通りに面したホテル龍名館お茶の水本店のメインダイニング「RESTAURANT
 1899 OCHANOMIZU」は、天気の良い日のランチにおすすめです。お店の名前は、
 龍名館の創業年にちなんだもの。メニューはとてもヘルシーです。お腹の空いている人には豚丼、とにかく野菜を食べたい人にはサラダプレート、他に日替わりランチや魚料理もあります。値段は1,000円から1,400円くらい。学生には少し高いかもしれませんが、ちょっと背伸びをしてテラス席でランチを食べると、見慣れたお茶の水がいつもと違う街に見えてくると思います。



ある日のランチ。左から小川非常勤講師、福西非常勤講師、山中、小泉客員教授、廣部非常勤講師。

神田駿河台3丁目

焼鳥 | 鳥益

重枝豊 (しげえだ・ゆたか) 教授



「鳥 益」は兄弟でやっている焼き鳥屋です。備長炭で焼き上げた各種の鶏肉は、
 ビールに良く、焼酎、ワイン、日本酒に合います。焼き場に仁王立ちしているのが
 兄貴で、彼の料理に対する情熱にはいつも敬服させられます。弟は兄貴を補佐すると同時に、さまざまな客の要望に応えてくれます。料理をつまみに楽しむ場ですが、原則として大人数で騒ぐための場ではありません。ワイワイ騒ぎたいときには、別の店にした方が良くもありません。この店は、兄弟のつくる料理を楽しみたいという客で満ちています。「客が増えれば良い」、「売り上げがあがれば良い」ということは、商売の鉄則とも言えますが、2人は職人として料理を提供してくれます。こんな職人気質の店が、お茶の水エリアにはたくさんありましたが、どんどん消えていってしまいました。誰が暖簾をくぐっても拒否されることはありません。ゆっくり誰かと話をしたいときに寄ってもらえれば良い。そんな店です。



文科大臣賞受賞後に行った店。黒いシャツを着ているのが兄弟。私と兄貴の間にいるのが2人の実母。

神田駿河台3丁目

ラーメン | らうめん とくや

富田隆太 (とみた・りゅうた) 教授



新 御茶ノ水駅前郵便局からすぐ近くのラーメン屋さんです。落ち着いた店構え
 なので、あまり目立ちませんが、扉を開けると非常に落ち着いた空間が広
 がります。このお店にはじめて入ったのは、だいぶ昔で思い出せませんが、10年くらいは前でしょうか。ドアが大きく、中の様子も見えないことにも魅かれて、好奇心で入ったのがきっかけでした。おすすめはらうめんですが、メニューも豊富で、生姜入りらうめんなど、いろいろなメニューが楽しめます。また、何より、お店の自慢は心地よい接客です。とても親切で丁寧なお店です。今回の企画も、写真を撮らせてもらえるようお願いしたら、ご快諾いただきました。さらに、なんと、日大生ですと言ったら、「玉子をサービス」してくださるそうです。学生の皆さん、ぜひ、試してみてください。



落ち着いた店構えに、大きな扉が特徴的。

神田駿河台3丁目

中華料理 | 興隆

宮里直也 (みやさと・なおや) 教授



「興隆」は、大学側の本郷通り沿いにあり、企業の方や研究室の院生たちと仕事帰りによく利用します。このお店は中華料理屋ですが、和食メニューも含めてたくさん料理があります。お店に行くとき必ず頼むのが、980円でビール1杯と料理2品が頼める「寄り道セット」。どの料理もおいしいですが、おすすめは「麻婆豆腐」と「餃子」です。特に、熱々の石焼鍋で提供される麻婆豆腐は、山椒と唐辛子が効いてとても旨い！また、このお店を利用するとき、必ず座るのが店内の奥にある円卓です。それぞれ自分の好きなものを食べたい分だけ取り分けて、みんなと顔を合わせてお酒を飲むと、自然と会話も弾み、日頃なかなか話せないことも話せますので、とても楽しい時間を過ごさせています。それと、私は利用したことはありませんが、昼はコスパの高いお弁当があり、研究室の学生には大人気のようです。



必ず頼む麻婆豆腐。山椒と唐辛子が効いて、しびれる辛さがビールによく合います。

神田駿河台3丁目

ラーメン | ゆきふじ

井口雅登 (いぐち・まさと) 助教



私が紹介するのは、大学からほど近いところにある「ゆきふじ」のラーメンです。駿河台周辺にはたくさんのラーメン店がありますが、この店を出す紅湯麺（フォンタンメン）は、独特の味わい。ヘルシーラーメンと唱っているだけあって、こってりラーメンとは一線を画し、あっさりしていて辛くありません。酢の効いた、薬膳のような赤いスープで、うま味のあるたいへん優しい味なのです。なんとといっても、角煮や肉みそとともに添えてあるパクチーがとても良いアクセントとなっています（パクチーが苦手な場合は、かわれに代えられるらしいです）。五香粉という、聞き慣れないスパイスを入れるのもおすすめ。少し変わったラーメンですが、食べるほどに、どんどんクセになります。通い詰めているうちに、私はすっかりハマってしまいました。機会があれば、皆さんも、ぜひご賞味ください。



特選紅湯麺にすると、ワンタンなどの具が増え、豪華なラーメンとなります！

神田駿河台3丁目

弁当 | フェアビнден ほか

堀切梨奈子 (ほりきり・りなこ) 助手



駿河台周辺の飲食店は、お昼どきのお弁当も充実しています。「フェアビнден」は、産地直送食材を使った「お母さんにおまかせ弁当」が700円。日替わりなので、その日のメニューはwebでチェックしてから買いに行きます。ときどき、店頭で販売しているお弁当に使われた食材を購入することも。「サル・ドルポ」は、鴨ローストや鶏肉トマト煮などのイタリアン弁当。「グリーンパッタイ」のガバオや「マルタケ」のクッパ、「エチオピア」や「チャントーヤ」のカレーなどが、日々のレパートリーです。改めて書き出すと、多国籍で、自宅ではつからないラインナップをお茶の水のお昼で味わっています。持ち帰りできる甘味も充実。寄り道をして、「STYLE'S CAKES & CO.」のフルーツタルトや「近江屋」のシュークリームやプリン、「嘉祥庵」のどら焼きなどをプラスすれば、ちょっと特別なランチタイムです。



お母さんにおまかせ弁当。この日の主菜はマッシュルームソースの豆腐入りスクエアバーグ。

神田小川町1丁目

イタリアン | ラ コモディタ

矢萩有美子 (やはぎ・ゆみこ) 副手



「ツナときのこのトマトソーススパゲッティ」。淡路町の頃のお店よりも、カジュアルな雰囲気か漂います。

2000年10月にオープンしたイタ飯屋さん。以前は、淡路町2丁目にありましたが、お茶の水の再開発プロジェクトにより、2010年に小川町1丁目に移転しました。

この店のランチは、リーズナブルな値段で、本格的なパスタを愉しめます。木村翔先生（2001年3月に退官、日本大学名誉教授）も気に入られて週に一度は訪れておられ、店内で何度もお目に掛かりました。現在は、ペンネやラザニアなどもランチに加わりましたが、淡路町にお店を構えていた頃のランチは主にスパゲッティで、今よりもチーズをふんだんに使用したトマトソースでした。残念ながらお店が移転した関係で、木村先生がよく座られていたソファはなくなってしまいましたが、今でもトマトソースのスパゲッティを口に運ぶと、自然に木村先生のごことが心に浮かびます。また、木村先生が教主任でおられた頃の建築学科を思い出させてくれる、懐かしさも感じるお店です。

神田小川町1丁目

ラーメン | つじ田

秦一平 (はた・いっぺい) 教授



お店の入口。

私がよく通っていたお店は、靖国通り沿いにある「二代目 つじ田」です。2011年頃、私の中では、ぐるなび評価3.5以上のラーメン屋に行くことがブームとなり、

さまざまなお店に行っていました。いろいろ試した結果、大学から近い「つじ田」の「特製味玉つけめん」を食べに、毎週2回くらい通っていました。そのころから常連になり、のりが1枚のところ、5枚も入っていて、麺も少し多めになっていました。さらに、2013年から長期研修で渡米していたとき、今はなき、お土産用のつけ麺があり、それを買ってきてもらい、アメリカで食べて、現地の友人にもふるまったりしました。さらに、ロスにも支店があり、わざわざサンフランシスコから行ったくらいです。お陰様で体重増となり、つじ田Dayを1か月に1度にしてます。いつも混んでいるので、14時くらいに行くのがおすすめです。

神田小川町2丁目

寿司 | 笹巻けぬきすし総本店

根上彰生 (ねがみ・あきお) 教授



7個入り1,650円也。店内で食べられます。創業元禄15年の由来は店内に掲げられています。

そ えば、最近では昼はコンビニ、宴会は居酒屋ばかりで、この企画には不向きな生活をしています。数年前、神田近辺の大学の先生や学生と若手の飲食店主を交

えて、「食の街」をテーマにしたトークイベントを催しました。学生の街なのに店ではあまり学生を見掛けないね、飲食店側から見ると客単価の高いビジネスパーソンの方が魅力的、学生側からは老舗や話題の飲食店があってもよく知らないで敷居が高い、先生たちは学生の頃は食べ歩いたり飲み歩いたりしたもんだけど最近は……というような話があって、それじゃあ学生の街を盛り上げるためには、昔を知っている先生たちがもっと学生を連れて、食べたり飲んだりしないといけないね……というようなコメントをしたのを思い出しました。反省。写真は、昔々おじいさん先生から頼まれて買いに行った、近くの老舗の折詰。今回、テイクアウトランチにしてはじめて食べました。

神田小川町2丁目

麦 | むぎくらべ

廣石秀造 (ひろいし・しゅうぞう) 短大准教授



この看板が目印です。

大 学周辺はまだまだ知らないお店も多く、たまに散策してみると新しい発見があつて面白いです。こちらも最近見つけた、日本全国の「麦」をテーマとした

アンテナショップです。1つのショップの中にパン屋さんや麺類のお店が入っていて、それぞれ1~2週間程度で定期的にお店自体が入り替わります。メニューは「麦」縛りですが、ラーメン、うどん、パスタなど、入れ替わる内容は多岐にわたります。行くたびにお店もメニューも変わっているから、いつも違ったものが食べられます。しかも、(今のところ)どれもおいしいです。ただ、どうせ麦縛りなら、夜は週替わりで日本全国のクラフトビールを出してくれたら……と勝手に思ったりもしています。

神田小川町3丁目**紅茶専門店 | 一茶一会****阪本一生 (さかもと・かずき) 助手**

ここ最近、海外から次々とタピオカドリンク専門店が日本へ上陸し、10～20代女性により再流行中のタピオカティーですが、今回は、大学周辺にある、おいしい本格タピオカティーが飲めるお店のご紹介です。「一茶一会」を知ったのは、2010年、私が大学4年生の頃、グルメ通な研究室の先輩から、イチオシのお店としてすすめられたことがきっかけでした。今回、改めて調べてみると、「一茶一会」は2003年に車での移動式茶房としてスタートし、当時は駿河台キャンパス1号館前でも販売していたと知り、強い縁を感じました。30種類以上ものメニューに使用するお茶は、すべて店長自らが台湾で契約・輸入しているもの。今回は、珍しい「金萱烏龍茶 (きんせんうーろんちゃ)」というお茶を特別に試飲できました。やわらかなミルクのような甘い香りのするお茶で、とてもおいしかったです。ぜひ、ここでしか飲めない絶品のお茶を一度お試しください。



泡立ったミルクティーに大粒のタピオカ。

神田小川町3丁目**喫茶店 | ジャズオリンパス!****山田雅一 (やまだ・まさいち) 教授**

アナログのジャズ喫茶。JBLの素晴らしい音響によるジャズとおいしい食事を堪能できます。卒業研究・設計などで行き詰まったときには、お茶の水の喧噪から離れて、この異空間に身を置くことで、リフレッシュすることができるおすすめのお店です。食事は、知る人ぞ知る極上の赤いチキンカレーを賞味することができます。辛いのがどうしても苦手という人は、絶品のキノコのハヤシライスを楽しむこともできます。この「ジャズオリンパス!」は、「和モダンを活かした江戸ホテル」と謳っているホテル (昇龍館) に併設されており、場所は本学1号館南の太田姫稲荷神社の近くに位置しています。ホテルは半世紀以上の歴史があり、都会の真ん中で和を感じることができます。客室もなかなか居心地が良いです。私も何度か利用したことがありますが、大浴場とシンプルな朝食も好きです。



どこにあるかわかるかな? 検索してみてください。

神田小川町3丁目**洋菓子 | ドース イスピーガほか****佐藤光彦 (さとう・みつひこ) 教授**

甘味処を3店紹介します。「ドース イスピーガ (DOCE ESPIGA)」は、東京でも珍しいポルトガル菓子専門店。何れもしっかり甘くておいしいです。見慣れないお菓子も多いですが、丁寧に説明してください。最近主流のふわとろ系ではない、どっしりとした濃厚なプリンも好み。創業明治17年 (現店舗は昭和41年) の「近江屋洋菓子店」は、レトロモダンな落ち着いた店舗空間も素晴らしいです。ドリンクバーを注文すれば、イートインもできます。円形の苺サンドショート (¥800) は、大きめなのでシェアするとよいでしょう。甘味ではありませんが、パルメザンチーズクッキーも好きです。「御菓子処さゝま」は、創業80余年の老舗和菓子店。松葉最中 (¥140) がおいしい。たまには月替わりの生菓子を買って、お茶をいれて、季節を味わってみるのも良いのでは。



小川広場近くの路地にある小さなお店。絶品のエッグタルト (¥240) は、午前中で売り切れることも。

神田小川町3丁目**スイーツ | タピスタ****田中麻未也 (たなか・まみや) 職員**

あなたのお気に入りの「食」ということで、最近流行っている「タピオカ」を紹介したいと思います。すでに巷で人気の「タピオカ」ですが、実はここ数ヶ月で、神保町やお茶の水周辺に3軒も新しい店ができていくことからわかるように、大学内でも大変流行っています。そういう自分も、大学から「南洋堂 (建築専門書店)」へ行く際に、「タピスタ」をよく利用するのですが、パステルカラーの看板の前で、女子高生と一緒に行列に並ぶのはとても恥ずかしいです。しかし、甘いミルクティーとなんだか不思議な食感のタピオカのおいしさは後を引いて、いつの間にかポイントカードまでつくっている始末です。皆さんも騙されたと思って、飲んでみてはいかがでしょうか。もうすぐ夏ですし、暑い日差しの下で、女子高生をかき分けて手に入れたタピオカミルクティーは、新鮮な驚きがあると思います。



大学から南洋堂へ行く途中にあります。

神田小川町3丁目

スープカレー | 鴻

中田善久(なかつた・よしひさ)教授



私

のお気に入りのお店は、御茶ノ水駅を出て、明大通りを下ったところにあるスープカレー専門店、「鴻(オオドリ)」です。お茶の水はカレーの激戦区で、おいしい

お店が多くありますが、その中でも珍しいスープカレーのお店を取り上げることにしました。メニューは、赤と黒のどちらかのスープの中に、メインとなる具を選んで組み合わせて注文します。私のおすすめは、赤の骨なしチキンカレーです。スパイスの効いた手羽ベースの赤いスープカレーに、柔らかなチキンがとてもたまりません。スープカレーの辛さは4段階ありますが、私はいつも1段階目の標準を頼みます。また、ライスの大盛りとおかわりは無料なので、満足のいく量が食べられます。私は時間があるときにしか行けないので、あまり行けていませんが、とてもおいしいので、ぜひ足を運んでみてください。



オレンジ色のテントが目印です。昼間の時間帯になると、多くの人が並んでいます。

神田淡路町2丁目

中華料理 | 上海味わい

古澤大輔(ふるさわ・だいすけ)助教



「上

海味わい」という中華料理屋は、建築設計Ⅲの課題で計画敷地になっているので知っている学生も多いでしょう。このお店の凄いところは、いつ行っても必ず入

れること。金曜の夜に予約なしで団体で押し掛けても大丈夫です。学内行事の懇親会の二次会などで何度利用したか数え切れません。そんなわけで、タワー・スコラから歩いて1、2分という利便性から、別名「上海校舎」とも呼ばれています(笑)。はっきり言いますが、特においしいわけではありません。いつも夜に利用させてもらっているので、お昼の食ベログの口コミ欄を見ました。すると、ランチは意外と混んでいるようです。数あるコメントの中にはこんなことが書かれていたので抜粋します。「特に混んでる理由は判りません。」空間のキャパシティこそが上海校舎の魅力なのです。最大80名まで入れる2階座敷の「教室」に、皆さんも「受講」しに来てみてはいかがでしょうか?



2階はすべて座敷。看板の「中国五千年の味」というパワーワードが味わい深い。

神田猿樂町1丁目

カフェ | カフェ デプリマベアラ

井本佐保里(いもと・さおり)助教



こ

の4月に着任し、まだまだ大学周辺のお店を開拓できておらず、他の先生たちに連れていってもらえばかりの毎日ですが、着任後「はじめて一人で行ったお店」を

紹介します。錦華公園の近くの隠れ家的カフェ。濃いのに後味あっさりで、これまで飲んだ中で一番おいしいコーヒーでした。アーチの天井、レトロな調度品や内装で、「日本ではないどこか」を感じる空間なのですが、新米の私にとっては「神田」という異文化にさらされたように感じました。常連さんに対して、「いらっしゃいませ」ではなく「こんにちは、ねこちゃん元気?」。神田の祭りや「路線バスの旅」で神田が特集された話などが、お客さんとオーナー夫妻の間で繰り広げられています。ここで「こんにちは」と迎えられたら神田の住人になれたということか、と楽しみです。



どこがカフェなのか一見わからない、というのもお店のこだわりかもしれません。見つけてみてください。

神田猿樂町2丁目

カレー | ばんび

石鍋雄一郎(いしなべ・ゆういちろう)短大准教授



私

はとにかくカレーが大好きで、仕事やプライベートで行く先々にあるお店を巡ることを20年近く続けています。きっかけは、修士時代に神保町界隈のカレーに出会っ

たことです。この20年で近隣のカレー屋さんもずいぶん様変わりしていますが、変わらず営業を続けているお店の味は、やはり間違いのないと言えます。私の好きなお店で具体名を挙げれば、「トプカ」「共栄堂」「ペルソナ」などが該当しますが、イチオシをオススメするならば「ばんび」になります。私のカレー食べ歩きの原因となったお店で、インド風とタイ風のカレーがメニューにあり、また、マイルド系から激辛系と、幅が広いので友達どうして食べに行くのにも良いと思います。カレーに限らず、お気に入りの料理があると、どんな街に出掛けても楽しみがあるので、日々がちょっと楽しくなりますよ。



お店の外観。「生ビール」のノボリが見えますが、スパイス料理をおつまみに飲むこともできます。

神田神保町1丁目**コーヒー専門店 | 神田伯刺西爾 ほか****加藤千晶 (かとう・ちあき) 助手**

「神 田伯刺西爾」は、私の好きな珈琲店で、神保町へ本を買いに行くときなど、休憩で利用します。小宮山書店の地下にあり、タイル床のレトロな古民家風のインテリアです。ここの珈琲がおいしくてほっとします。ちょっと一息付くのにはちょうど良いです。シフォンケーキやコニャックショコラ、バイクドチーズケーキなどのケーキもおいしいです。今の暑い時期は、冷やしブレンドも香りが良くていいと思います。また、すずらん通りにある「はちまき」という天ぷら屋さん、私が大学院生の頃に知ったお店です。調査の帰りに一緒にいた先生方が、このお店を見てびびっと来たらしく、そのままお店に入って天麩羅定食を食べました。さくさくでもたれず、とてもおいしかったです。高すぎない値段設定だったので、天麩羅が食べたくなったときに通うようになりました。



小宮山書店の側面にある神田伯刺西爾の入口。

神田神保町1丁目**中華料理 | 川府****道明裕毅 (どうみょう・ゆうき) 助手**

神 保町にある「川府 (せんふう)」というお店は、四川料理、特に刀削麺が有名なお店です。小ささまざまな形をしたもちもちの麺が、嫌というほど入っている刀削麺は絶品で、1年ほど前に出会ってから、定期的に通っています。味も、坦々風、野菜たっぷり、スペアリブ入り、汁なしなどさまざま、どれもおいしいのですが、ぜひチャレンジしてほしいのが麻辣 (マラー) 刀削麺。四川料理ならではの山椒が効いた辛味と、食べても食べても出てくる刀削麺がとてもおいしく、おすすめの一品です。汗が止まらなくなりながら、最後まで食べたときの達成感、食事とあわせて楽しめます。ただ、この刀削麺には香草のパクチーが入っているので、苦手な方は、注文のときに抜いてもらうのを忘れないでください。古本などを買いに神保町をぶらりとした際には、ぜひ寄ってみてください。



刀削麺は昼でも夜でも注文できますが、ランチの量が少しお得です。

神田神保町3丁目**コーヒー専門店 | GLITCH COFFEE & ROASTERS****橋本修 (はしもと・おさむ) 教授**

明 大前の通りを下り、靖国通りを渡ったところにある「GLITCH COFFEE&ROASTERS」。このコーヒー店では、深煎り焙煎のコーヒー志向とは違い、産地厳選された豆を浅煎り焙煎し、バリスタの手で丁寧にドリップしています。はじめて口にするときの香りが最高！ コーヒーの味と一緒に優しい果実の香りが、鼻腔をスーッと心地よく通り抜け、コーヒーチェリーと言われる通りの豆本来の果実の素味を堪能することができます。時間が経つと、そのテイストが変化していくこともさらなる魅力。落ち着いた内装の店内で、味と香りのシンフォニーに心を委ねていると、店内に流れるブルース・ミュージックが優しくシンクロナイズしていく。日ごろの雑念を払拭したいとき！ 溢れるアイデアを手帳にFlowしたいとき！ 自分の気持ちに素直になりたいとき！ どんなときでもステキなひとときを提供してくれる私のヒーリングスポットです。



Tasting Notesを先に見るのも良いですが、まずは自分の感覚で楽しみましょう！

湯島1丁目**うどん | 竹や****宮田敦典 (みやた・あつのり) 助手**

私 がよく行くお店は、御茶ノ水駅から聖橋を渡った先にあるうどん屋「竹や」です。そのお店の数あるメニューの中でも「海老天カレーうどん」が特におすすめです (いままで海老天カレーうどんしか食べたことがありませんが……)。私はカレーが大好きです。「ボンディ」や「キッチン南海」など、お茶の水周辺にはおすすめのカレー店が多くあります。ただ、お茶の水周辺がカレー激戦区であることや、建築学科には多くの先生方が在籍していることから、誰かしらカレー店を取り上げると思いましたので、あえてカレーうどんを取り上げました。ここのうどんは細麺で、汁とよくからみ、まるやかで少しスパイシーなカレーうどんを堪能できます。また、海老天カレーうどんは、通常のカレーうどんにプラス100円で海老天 (5尾) が付いているので、少しお得感もあります。カレーが大好きな方は、ぜひ足を運んでみてください。



お店の外観。夜は飲み屋として利用される方も多くいます。

湯島2丁目

カフェ | みじんこ

長沼一洋 (ながぬま・かずひろ) 教授



最 近、どこを歩いてもコーヒーのチェーン店が目立ちます。昔ながらの喫茶店はめっきり少なくなりました。このお店は湯島にありますが、駿河台キャンパスから歩いても10分ちょっとで行けます。聖橋を渡り、左に東京医科歯科大、右に湯島聖堂を見ながら、大通りを2つ渡ると登り坂になります。普通に歩いて行くと通り過ぎてしまうほど目立たないお店です。私はコーヒー好きの知り合いに教えてもらったのですが、自家焙煎のコーヒーは言うまでもなく、厚さ5cmはありそうなホットケーキが人気のようです。フレンチトーストやサンドイッチもあります。昼食メニューもありますが、お昼どきから午後にかけては混雑していることが多いです。中はそれほど広くはないですが、窮屈な感じはなく、落ち着いた雰囲気です。神田明神も近くにありしますので、散策を兼ねて行ってみたいらどうでしょうか？



登り坂を上がって、道路左側にあるお店の入口。

湯島2丁目

天ぷら | 天庄

矢代真己 (やしろ・まさき) 短大教授



メ タボ」が気になっています。と言ってもメタボリズムではありません、メタボリック症候群の方です。とはいえ、昼食を取るには船橋校舎の学食は学生向けにボリュームたっぷり、カロリーたっぷり。また、仕事で遅くなり近所で夕食でも……と思っても、キャンパス周辺にはそれ向きの店はほとんどありません。そのため、空腹を抱えて帰宅、遅い夕食ということになります。ということで、メタボ解消には縁遠い日常です。こうした中、カロリーのことには目をつぶってご馳走を堪能したくなるときに出掛けるのが、ここに紹介する「てんぷら天庄(別館)」です。天ぷらのみならず、刺身などもとてもおいしい。カウンターに腰掛ければ、一品ずつ熱々を楽しめます。やはりそれなりの値段となりますが、質を考えればリーズナブルではあります。出掛けなくなった向きは、別館では提供されているランチタイムの天井を手はじめにどうぞ。



湯島天神の正面、銅鳥居にほどちかいマンションの1階。隣には本館もあります。

神田須田町1丁目

カフェ | 東京豆花工房

赤澤加奈子 (あかざわ・かなこ) 助教



私 のお気に入り、神田須田町にある「東京豆花工房」です。「やぶそば」や甘味の「竹むら」など和の名店が軒を連ねる一角にある、台湾の伝統的スイーツ「豆花」の専門店です。豆花とは豆乳をにがりなどで固めたもので、優しい甘さの温かいシロップを掛け、さまざまなトッピングを入れます。台湾ではとても身近なデザートですが、ほかにも香港、中国、ベトナム、シンガポールなどでも見られ、シロップもさまざまなものがあります。こちらのお店は、豆花、シロップはもちろん、トッピングも台湾の本場の味さながらで、まさに「工房」らしい丁寧なこだわりが感じられるお気に入りの一店です。トッピングは、豆や芋、もち、麦、米、きくらげなど、からだに優しく、さまざまな食感が楽しめます。その素朴で優しい甘味にほっと癒され、台湾にトリップした気分になれること間違いなしのおすすめのお店です。



開放的な店内は台湾らしい装飾や現地のラジオが流れ、さながら台湾の街角にいるような雰囲気です。

神田須田町1丁目

うなぎ | 神田 きくかわ

田嶋和樹 (たじま・かずき) 准教授



も う15年以上前になります。私は博士後期課程の3年生(大学に入学してから9年目)になり、とうとう博士の学位取得の直前までこぎつけました。その年の年末に専攻内説明会を終え、年明け早々に公聴会に臨むことになりました。私の出番は昼過ぎでしたので、お腹が鳴っていましたが、あえて昼食を後回しにしました。それは、ベストな状態で発表に臨みたかったからではありません。自分へのご褒美として、発表後おいしいものを食べに行くことに決めていたからです。ただし、この時点では、どこで何を食べるかは決まっていませんでした。そして、無事発表が終了。その瞬間、強烈に頭に浮かんだのは、「神田きくかわ」のしっぽが折れたうなぎの美しい姿でした。一人で老舗ののれんをくぐり、解放感に浸りながら食したうなぎの味は、私にとっての思い出の味です。



久しぶりにきくかわのうなぎを食べに行きました。しっぽが折れたうなぎは売り切れでした……残念。

神田多町2丁目**とんかつ | とんかつ 三****星和磨 (ほし・かずま) 短大准教授**

小 川町、淡路町、須田町には、とんかつの名店がたくさんあります。私も秋葉原の「丸五」にちょくちょく通っていたのですが、いつの間にか長い行列ができる人気店になってしまいました。今回紹介するのは、神田駅近くの裏路地に最近できた、とんかつ専門店「とんかつ三 (SUN)」です。上品でサクサクなとんかつを、醤油ベースの甘辛ソースにくぐらせたかつ重が、なんと980円で味わえます。カウンターに座って注文をすると、おじさんの丁寧な仕事ぶりをじっくり観察することができますよ。お昼は12時を越えると混むので、11時台に暖簾をくぐると良いでしょう。カウンター6席、4人掛けのテーブル席が1つしかありませんので、団体で行ってはダメです。1人が2人で、こそっと行くことをおすすめします。



ちょっと粋なひょうたん型の器に、キャベツと沢庵と三つ葉が乗って出てきます。

外神田2丁目**甘味処 | 天野屋****田所辰之助 (たどころ・しんのすけ) 教授**

聖 橋を渡り、神田川の向こう側へもぜひ足を運んでみてください。聖橋から湯島聖堂が望めますが、そのちょうど裏手に神田明神があります。参道入口の鳥居脇に、ちよこんと昔ながらの佇まいを見せているのが「天野屋」さん。江戸時代末に創業した甘酒屋です。地下6mに「土室(むろ)」と呼ばれる糀室があり、現在も手造りの旧製法で甘酒がつくられています。この「土室」は、千代田区の指定文化財で、お店の脇のパネルで様子が知れて興味深いものです。店内には坪庭があり、落ち着いたインテリアでゆっくり時間を過ごせます。かつて神田明神山岸の湧水は江戸の生活を支え、また、神田山を切り崩して、大手町周辺の埋め立てもなされました。江戸東京の成り立ちに思いを馳せながら、滋味あふれる甘酒(「飲む点滴」とも?)を試してみたいかがでしょう。あわせて、神田明神や湯島聖堂、足を延ばして湯島天神に学業成就をお願いしつつ……。



神田明神鳥居脇の店構え。左側がお店の入口。右側が売店。大粒の自家製芝罘納豆はとても美味。

東神田1丁目**とんかつ | いもや****二瓶士門 (にへい・しもん) 助教**

学 生の頃、よく「いもや」に通っていました。当時は2号館の裏あたりになりましたが、いまでは閉店し、都内でいもやのとんかつは東神田でしか食べることができません。神田駿河台界隈では、「かつ屋」「ポンチ軒」「万平」「松栄亭」などがよく行くところにはなりますが、いもやのとんかつはどうしても食べたいため、今でも行くことがあります。東神田は、かつてはCET、現在は裏千代田といった、地元で元気のある人たちが情報発信をしています。また、歴史的には、神の田んぼと書くだけあって將軍用の田んぼがあり、かつてはそのグリッドを活かした金物や百貨店向けの問屋街であり、5月は神田祭りの拠点となります。最近ではリノベーションなどにより、カフェ、雑貨、ギャラリー、インバウンド向けコンドミニアムが増え、歴史と現在が混じりあった東神田にも足を延ばしてみたいかがでしょう。

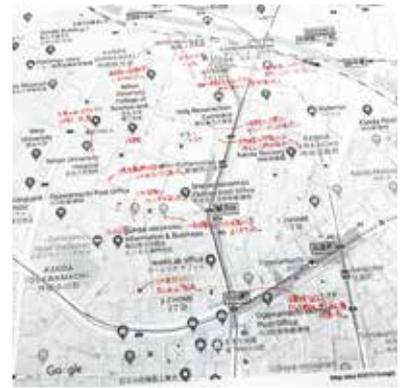


東神田にあるいもやの看板。この手前の左側の路地に入るとお店にたどり着く。

神田駿河台・神田小川町・神田淡路町ほか

?

佐藤慎也(さとう・しんや) 教授



失われた食たちの地図。

1 号館を降りた左側に、かつてきしめん屋がありました(調べてみると「折戸」という店)。学生時代に大川三雄先生に教えてもらい、よく食べに行きました。とてもおいしかった。今ではスノーボードの専門店になっています。駅前に、「お茶の水園」という中華料理屋があり、そのカルビクッパもおいしかった。注文すると、店員が伝票にCCPと記入していたことを思い出します。小川町の交差点に、讃岐うどんの店がありました。チェーン店が増える前からあって、香川出身の人もおいしいと言っていました。太田姫稲荷神社向かい2階のステーキ、その隣のスンドゥブなど、学生のと看、更に教員になってから通った多くの店たちが失われました。いつも行ってる店たちも、気が付いたら無くなっているかもしれません。食べものって、そんなものですよね。いつ失われても良いように、毎日の食事を楽しみたいと思います。さて、今日はどこへ食べに行こうかな。

船橋・坪井町

パン | プーランジェリー クー

川嶋勝(かわしま・まさる) 短大助教



10時台で売り切れの人気商品も。大きなバッグは友だちに預けて入店しましょう。

ぜ いたくな味を気軽に楽しめるプーランジェリー。着任5日後の初散歩で発見!と喜んだのですが、超の付く有名店でした。船橋日大前駅からキャンパスの反対側へ徒歩5分。店構えはふつうの民家ようですが、お客さんの出入りが絶えず、通りすぎることはなりません。7~8人で入店制限となるコンパクトな店内には、ベーシックなバゲットからスイーツ系、惣菜系まで50種は並んでいるのでは。近隣マダムの列に気後れしてしまう私には、なかなかじっくり選べません。やっと手を伸ばしたツブ貝とキノコソテーのカマンベールチーズサンドは、春の限定品と購入後にお店のブログで知りました。前回いただいたアジフライサンドは、タルタルソースの隠し味に梅を使っているのでは、と想像します。製図提出後の自分へのご褒美におすすめです。

船橋・習志野台2丁目

中華料理 | 中華料理五十番

石田優(いしだ・ゆう) 短大助手



習志野台6丁目交差点より撮影。右側の赤色の看板が、中華料理五十番。

キ キャンパスの西門から、住宅街の中にある北習志野第6号公園を通り過ぎ、東西に長い習志野団地に沿って歩くこと10分ほど、習志野台6丁目の交差点から北習志野駅の方へ連続する街路樹のはじまりにある、赤を基調とした看板が目印です。メニューは、麺類(おろちよんらーめん、蒸し鶏の胡椒味噌ラーメン、もんじゃラーメン、牛バラ牛スジ冷やし担々麺、麻辛冷やし担々麺など)、飯類(チキンガーリックチャーハン、四川風ピリ辛麻婆飯、びつくり丼(ライス2人前)、牛バラ煮込みこくうまご飯など)、一品料理(サクサク揚げネギ醤油ダレ、鶏肉とナスの甘辛生姜風味、豚肉と茄子の味噌辛し炒めなど)があり、30センチほどのお皿に盛り付けられています。また、セットは、飯セット、麺セット、ミニサラダセット、杏仁セットがあり、お昼からたくさん食べたい方にはおすすめです。

船橋・習志野台2丁目

タイ料理 | メイサイストア

羽入敏樹(はにゅう・としき) 短大教授



入口の両脇に、タイの雰囲気を感じられる大きな人形が置いてあり、期待が高まります。

船 橋キャンパス周辺にはお店が少ないので、行く店がだんだんマンネリ化してきます。そこで年に何回か、周辺の大通りから外れた裏路地や住宅街などをぶらぶらと散歩しながら、お店を探索します。チェーン店ではない、ディープな良いお店が見つかることが多いのですが、「メイサイストア」もそのように見つけたお店です。タイ人のお母さんとコックさんがやっていて、料理、ビール、インテリア、BGM、メニューの文字などすべてがタイ。「どこでもドア」でタイに来たような気分になります。料理は容赦ない辛さで、パクチーやレモンガラスの香りもすごい。何を食べてもおいしいです。このようなお店探索は、海外に行ったときに役立ちます。海外の「見知らぬ街」で、安くておいしいお店を探すときに勘が働くようになります。皆さんも、ネット検索をせず、たまには自分の足でお店を探してみたいかがでしょう。思わぬ出会いが世界を広げてくれますよ。

船橋・習志野台2丁目**パン | ソレイユ、かおりや ほか****山崎誠子（やまざき・まさこ）短大准教授**

パン屋さん激戦区の三茶住まいで、パンが好きなので、毎日朝食はパン。その上、たびたび昼食、夕食もパンになります。そこで、船橋通勤区間内でおすすめ購入ポイントを紹介。九段下で東西線に乗換のときに「神戸屋九段下駅」で、リッチなサンドイッチ。北習志野駅で乗り降りするときは、小さなお店「ソレイユ」で、数量は少ないですが、クロワッサンや小さな食パン系がおいしく、ケーキの誘惑も。ちょっと懐かしい感じの「かおりや」で、いろいろある中から総菜系や食パン系を。車で学校に行くときは、成田街道沿いの「ル・マタン」で、総菜系大量買い。贅沢するときは、船橋日大前駅の行列店「クー」（朝7時からオープン）で、デニッシュ系とスイーツ系。そして、夜遅くでもOKの「デイリーヤマザキ船橋日大前店（お店で焼いています）」の塩バターパンも侮れません。



あれもこれもとついつい買いすぎて、「クー」で3,000円ほど購入。

船橋・習志野台6丁目**中華料理 | 中華しみずや****酒匂教明（さこう・のりあき）短大教授**

私は船橋キャンパスに居ることが多いため、本特集を機に、改めて船橋キャンパス周辺のお店を見直すことにしました。多くは、船橋キャンパスから北習志野駅に向かう途中に探すことができますが、今回はキャンパスから割合に近いお店を紹介します。お店の名前は「中華しみずや」です。写真を見てもらうとわかると思います。老舗です。現在は二代目のご主人が料理をつくっています。給仕のおばあさんは非常に気が付く方です。料理は、いわゆる日本で独自に進化してきた中華料理です。一品料理からご飯もの、ラーメン、焼きそばなど一通り揃っています。値段は手頃、ボリュームは満点、味も上々です。先日食べたチャーハンは、卵のほどよい甘さと、濃くもなく薄くもない食べ飽きない塩っ気、チャーシューとハムの2種のお肉、ネギ、炒飯には珍しいマッシュルームが入っていて満足でした。



年季が入った技の料理が出てくることがわかるお店の佇まい。

船橋・高根町1丁目**カフェ | 蔵 6330 ほか****西島慧子（にしじま・さとこ）職員**

船橋で育まれた味を楽しみながら、ゆったりと時間を過ごすお店「蔵6330」と「トレーラー cafe 銀色」を紹介します。「蔵6330」は、田んぼの中にポツンと建つ牛乳屋さんが、蔵をリノベーションしてはじめたカフェレストラン。地元酪農家から仕入れた牛乳でつくったチーズピザやアイスクリームが、とても濃厚で美味です。温かみのある店内とオープンキッチンからのおいしい音と匂いでくつろげます。「トレーラー cafe 銀色」は、アメリカの映画によく出てくるキャンピングカーを改修したカフェ。近隣農家から仕入れた野菜を使ったワンプレートランチを、旅気分ですトレイラーの中で食べるのも楽しいですが、季節の草花が綺麗な庭をテラスで眺めながらのカフェもおすすめです。冬は、隣接するジブリ映画に出てきそうな小さな小屋におでん屋さんも開店するそうなので、楽しみにしているところです。



トレーラー cafe 銀色。左が、エアストリーム社製の銀色トレーラーを改修した店舗。

船橋・西船4丁目**居酒屋 | 漁師料理 番屋小屋****佐藤秀人（さとう・ひでと）短大教授**

年齢とともに、ボリュームのある料理よりは、淡麗で素材のかがりがするものを好むようになってきました。私にとって「居酒屋」は、そんな料理を好みのお酒とともに味わえる場所です。今回は、私のいきつけの居酒屋の中から、西船橋にある「漁師料理 番屋小屋」を紹介します。この店の看板でもある魚介メニューは、千葉県館山や宮城県石巻から直接仕入れているものも多いため、アジ、サバ、イサキなどの近海ものの刺身や、ホタテ、牡蠣などの貝類は、さすがに旨いです。この店に通つてもう10年以上になるでしょうか。当時は、いつ訪れても比較的空いていることが多かったのですが、最近では人気が上昇し、予約をしないと入れなくなってしまうのは、やや残念。私の好みは、浅締めサバとアジのなめろうで、気の置けない仲間と旨い肴をつまみながら呑む酒は、まさに至福のひとつです。



お店の看板。

第42回関西建築研修旅行レポート 関西・中部地方の名作の 内部空間体験を求めて

text = 加藤千晶 助手

今年の関西研修旅行は3月1日から同5日に掛けて実施し、飛騨高山、愛知、奈良、京都の古代から現代までの名建築を巡りました。

今回の関西研修旅行は、内部空間の素晴らしい建築が目白押しでした。例えば、高山にある近代の町屋で土間の吹き抜けの架構が特徴的な吉島家住宅・日下部家住宅や、室町時代前期の禅宗様建築の名作永保寺開山堂・観音堂、柱や軒先からなるフレームから大和平野と笠置山地の連山を見通す慈光院書院、四天柱からなる立体曼荼羅の空間を高さのある庇の空間で覆った法界寺阿弥陀堂、吉田五十八による新興数寄屋の邸宅の傑作北村美術館四君子苑など、いずれも必見なものでした。

残念ながらここでは、非公開の建築物の写真を掲載できません。ただし、特別公開が行われるものもあるので、その機会に実際の内部空間を体験してもらいたいです。



吉島家住宅（岐阜県高山市）

明治38年の類焼後に再建された近代の町屋。通り土間の吹き抜けに力強い梁組と立体格子の小屋組みがあらわれる空間が特徴的。高窓から入る光は小屋組みを照らす。吉島家の現当主は、理工学部建築学科を卒業した吉島忠男さん。



慈光院書院（奈良県大和郡山市）

慈光院は、寛文3年（1663）に茶人片桐石州によって父の菩提寺として建立された。生垣や盛土に囲われた参道を幾度か折れ曲がり、書院へ入ると、大和平野への眺望を見通す開放的な空間が広がる。

ここ数年、関西研修旅行において、それまで行程に組んだことのなかった非公開の名作を発掘しようと努めてきました。そのことで、それらの管理状況を窺うことができたのは収穫です。文化財の保存に関して言うと、建築物が良い状態で保存されている場合、そうになっているのは、建築物の維持・管理に係る人の意欲に由るのが現状です。今後、建築を見に行く学生たちにぜひ積極的になってほしいと思ったことは、見に行った建築を良いと感じたときに、自分の感性の素直さに従って、そのことをその場で表現してもらいたいということです（関西研修旅行に行くと、先生方が建築物についてああこうだと言って楽しんでいるのがよくわかると思います）。興味深いことに、教員や学生が建築を楽しんでいると、建物を管理している方々が喜んだ様子で説明を加えてくれます。建築物に携わる私たちが、建築物の良さや価値について伝えることで、維持・管理に係る人々や地域の人に気付きを与え、地道に浸透させていくことが大切なのだと考えます。

【図】



永保寺開山堂（岐阜県多治見市）

永保寺を開いた僧侶の墓塔を祀る祠堂と、礼拝空間である礼堂とを、相の間で繋いだ建築。毎年3月15日に公開される。礼堂背面の柱を大虹梁を架けることで省略し、礼堂と相の間を一続きの儀式空間として使用した点が面白い。

【日程】

2019年3月1日：松本家住宅、吉島家住宅、日下部家住宅、町屋の活用事例（福太郎、ゲストハウス）

2日：安国寺経蔵、永保寺開山堂・観音堂、養老天命反転地

3日：神言神学院、徳川美術館、半田赤レンガ建物、旧中荏家住宅

4日：法隆寺、慈光院、法界寺

5日：北村美術館四君子苑、国立京都国際会館

軽井沢研修所で ものづくり・サイエンス総合学科と 合同で開催

text = 山崎誠子 短大准教授

短期大学部建築・生活デザイン学科では、ここ5年間、4月の第一週にオリエンテーションとして、八王子にある大学セミナーハウスで1泊2日の合宿授業を行ってきました。入学したばかりの時期に、宿泊しながらのオリエンテーションは、学生同士の話し合う機会が増え、友達づくりが円滑に行われるとともに、建築への興味を持つことのきっかけを共有することができます。今年度は、「自主創造の基礎1」をオリエンテーション内で行うため、短期大学部のもう一つの学科、「ものづくり・サイエンス総合学科」と合同で行いました。

20日(土)は、早朝、東京駅八重洲口の鍛冶橋駐車場高速バスターミナルから観光バス3台に乗車、関越自動車道を経由し、軽井沢研修所に12時に到着。研修所内で昼食後、講堂で、星先生のネット情報のリテラシーについての講義。続いて、翌日見学を行う群馬県立近代美術館に関する川嶋先生の講義。群馬県立近代美術館は1974年竣工、磯崎新が設計し、建築学会賞を受賞している建築で、柱・梁の構成による12mのキューブという空間をモチーフにしたことが特徴などの解説がありました。その後は、オリエンテーション恒例の「ペーパータワー」の高さを競いました。A4のコピー用紙を50枚だけ用いて、より高く自立するタワーをグループで制作するもので、今年の記録は2.2mでした。入浴、夕食の後は、ものづくりサイエンス・総合学科と「自主創造の基礎1」の講義演習を行い、終了後は自由時間になり、23時に消灯、早朝から夜までミッションの多い



群馬県立近代美術館内部

日でしたが、消灯時間までラウンジや講堂でおしゃべり、卓球を楽しむ元気な学生が多くいました。

21日(日)は、朝食後、研修所前で記念撮影をし、観光バスで高崎市の群馬県立近代美術館を目指し、途中、横川SAの休憩を経て、10時半に美術館に到着。講堂で学芸員の方から美術館の概要を聴いてからは、自由行動、企画展示で「くまのパディントン展」が開催されていたため、多くの女子学生が熱心に絵を眺めていました。横川SAで受け取った「峠の釜めし弁当」を美術館外の公園で食べ、バスに乗りし、一路東京駅に向かい、午後3時半には到着して解散。交通渋滞、遅刻者もなく、天気にも恵まれ、充実したオリエンテーションになったと思います。部屋割りが学生番号順でなくシャッフルしたため、話すことがなかった人と話せたなど、その後に学生に取ったアンケートでもおおむね好評でした。関係者の皆さま、ご協力ありがとうございました。

■



川嶋先生の講義



ペーパータワー制作中



研修所前で全員記念撮影

新任非常勤講師紹介

2019年度は、建築界の最前線で活躍する 14名の先生が新加入

建築学科

デザイン基礎
建築設計 I

飯山千里

いいやま・ちさと



2002年日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士課程前期修了。
2003-07年みかんくみ一級建築士事務所。2007年飯山千里建築設計事務所開設。2016年-small代表。

建 築を考えるのは、世の中を考えることだと感じています。卒業し、実務に就くと、多くの社会的課題にぶつかります。食、自然、交通、家族、過疎など……。私はふるさとを拠点としていますが、地方でも都会と異なった課題がたくさんあり、どの仕事でも、毎回、新鮮な気持ちで取り組み、答えを出さなければなりません。日本と世界に色々な場所があり、その膨大な課題があります。皆さんが卒業後どこに羽ばたいても、楽しみながら課題に取り組めるよう、授業を通してサポートしたいと思います。



piccolino Photo = 栗原論

建築学科

建築設計 II

内部美玲

うちべ・みれい



東京工業大学工学部建築学科卒業。ミュンヘン工科大学建築学科留学。東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。青木淳建築計画事務所勤務ののち、UCHIBE ATELIER主宰および色景一級建築士事務所共同主宰。

建 築設計の課題では、次々と未知の問題に直面することだと思います。その都度、調べ、測り、聞き、なんとかする必要があります。でも、それは実務でも同じこと。いつまでもわからないことばかりです。けれども、そんな試行錯誤を続けていると、新しいことに取り組むことが日常になります。新しいことに取り組む際の自分なりの誠実な姿勢、クリエイティブに物事に向き合う姿勢を身に付けてほしいです。その力は一生もの。新任講師として、私もともに学びたいです。時間のある学生期間にたくさん挑戦をしましょう。



Summer Sonic ISLAND STAGE Photo = Chihaya Kaminokawa

短大

建築・生活デザインの基礎

大井裕介

おおい・ゆうすけ



2000年日本大学理工学部建築学科卒業。2002年同大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了。2002-12年西沢立衛建築設計事務所勤務。2012年大井裕介建築設計事務所設立。2017年ON設立。

建 築という分野は、とても広大で、歴史や思想・哲学、芸術性やモラルなど、今日まで集積された多くの建築や建築論があります。設計の課題を通して、建築単体のデザインだけではなく、都市や現代社会のライフスタイルや歴史を踏まえて、未来を切り開く、新しい建築を目指してほしいと思います。授業をこなすだけではなく、多くの建築やアートや自然など美しいものにふれて、より豊かな感性を磨くことも大切なことです。建築をつくっていく上で、社会に出てからもそれはとても有用なことだと思います。



kangaroo

建築学科

不動産開発プロジェクト
住環境デザイン

奥茂謙仁

おくも・けんじ



1984年東京理科大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年市浦都市開発建築コンサルタンツ（現：市浦ハウジング&プランニング）入社。以来、主に住宅団地計画・設計業務に従事。

建 築を学んで社会に出て以降、これまで、まちと住まい・暮らしの関係性の構築について、建築計画・設計の観点から、さまざまな試行を続けてきました。「ストック活用の時代」と言われて久しいですが、本格的な人口減少時代を迎え、建築と不動産の関係、地域やまちと住まいの関係などが、本当の意味で見直され、総合化されなければいけないと感じています。そうした新たな社会ニーズにも着目しつつ、これからの不動産開発、住環境デザインのあり方について、ともに考えていけると良いと思います。



UR都市機構ニューヴェル赤羽台

短大

建築・生活デザインの基礎
建築デザインスタジオ I

竹内光子

たけうち・みつこ



2006年日本女子大学大学院修士課程修了。2007-08年渡辺康建築研究所。その後、設計事務所などを経て、2012年-空間研究所。

建築学科
建築施工法

田中豊

たなか・ゆたか



1983年日本大学理工学部海洋建築工学科卒業。同年フジタ工業（現フジタ）入社。現在、建築本部建築エンジニアリングセンター副センター長兼東日本支社建築統括部副統括部長。日本大学理工学部まちづくり工学科、海洋建築工学科非常勤講師。

建築学科

建築設計Ⅲ
建築設計Ⅳ

塚田修大

つかだ・のぶひろ



1993年東京理科大学理工学部建築学科卒業。1995年早稲田大学大学院修士課程修了。1996年コロンビア大学大学院修士課程修了。1996~2000年伊東豊雄建築設計事務所。2001年塚田修大建築設計事務所設立。

大学院

建築デザイン I

中川エリカ

なかがわ・えりか



2005年横浜国立大学卒業。2007年東京藝術大学大学院修了。2007-14年オンデザイン勤務。2014年-中川エリカ建築設計事務所。

大学院

建築構造計画演習 II

中川路勇

なかがわじ・いさむ



1988年日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了（斎藤研究室）。1988年大成建設入社。現在、設計本部特定プロジェクト部長。

建 築は、建てたいと思う人だけでも、設計をする人だけでも、工事をする人だけでも、つくることができません。それぞれが、図面や模型やパースを通じて情報やイメージを共有し、つくり上げていきます。建築にとって、図面は言葉のようなものです。1年生の最初の授業は、この言葉を使えるようになることから始まります。思い描くイメージを、人と共有し、形にしていく作業は、とても大変ですが、楽しくやりがいのあるものです。そのための第一歩、そして成長を楽しみにしています。

ゼ ネコンで施工管理および積算業務に携わり、現在は、国内外のプロジェクトの川上領域で活動する、設計、積算、技術、設備、環境技術を集約した建築エンジニアリングセンターを統括しています。建設業界は、高齢化した技能員および施工管理者の大量離職、新規入職者の減少による建設就業者不足が課題となっています。授業では、基礎的な施工技術から革新的な生産性向上や効率化に向けた取り組みなど、魅力ある建設業界の実態を伝えたいと思います。

い まさらながらですが、建築はとても奥が深く難しいものです。掴んだと思っても、すぐにその輪郭がぼやけていってしまいます。そんな僕が、学生諸君に何を教えてあげられるのだろうか?と思うことがあります。正直、建築が何であるかは教えてあげられないと思います。でも、建築をどう悩むのかは教えてあげられるかもしれません。おそらく、建築がわかったと思ったらそこで終わりです。悩んでいるうちはまだ先があります。僕も悩んでいます。学生諸君にも、大いに建築を悩んでもらいたいです。

建 築の設計はとても楽しいことです。建築を通じて、今まで知らなかった世界と出会い、自分という人間の個性を理解し、他人を認め、思想を育て、知らず知らず当たり前だと思い込んでしまっていたことを少し客観的に考察することから、未来を予言するような大きな創造力と無限の可能性を感じることができます。先入観にとらわれない豊かさを、建築の設計を通して、皆さんと共有していくことを楽しみにしています。

構 造設計は、さまざまな用途の建物を担当しますが、私はその中でいくつかの大規模空間施設を設計する機会に恵まれました。多くの人が集い、一体感のある空間をつくり出すことができる仕事は、とてもやりがいがあると感じています。構造設計は、さまざまな技術とシステムにより成り立っています。建物をどのように捉えて、どのように設計を行うかは十人十色です。授業では実務に役立つ事柄をはじめ、建物をつくる楽しさを、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



encher kinuta photo = 山田薫



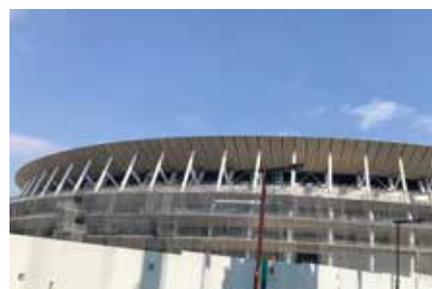
住宅では日本一の高さを誇る60階建てマンション



EARTH HOUSE photo = 坂下智広



桃山ハウス photo = 鳥村鋼一



国立立観球場

大学院

地震工学特論

畑田朋彦

はただ・ともひこ



1989年大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻修了。同年鹿島建設入社。1997年スタンフォード大学土木環境工学科エンジニア課程修了。2012-15年京都大学防災研究所客員准教授。現在、鹿島建設技術研究所上席研究員。博士（工学）。

建築学科

デザイン基礎
建築設計Ⅰ

原浩人

はら・ひろと



2004年東京都立大学大学院建築学専攻修了。2004-05年シーラカンス&アソシエイツ。2005-13年小泉アトリエ。2013年ハラヒロト建築設計事務所設立。2014-17年京都造形芸術大学非常勤講師。2014年 - 首都大学東京非常勤講師。

建築学科

建築設計Ⅲ
建築設計Ⅳ

廣部剛司

ひろべ・たけし



1991年日本大学理工学部海洋建築工学科卒業。卒業後、芦原建築設計研究所入所。7年間の勤務後、世界の建築を巡るため退所、8ヶ月に渡り名建築を訪ね歩く。1999年廣部剛司建築設計室設立。法人化を経て現在に至る。

建築学科

デザイン基礎
建築設計Ⅰ

許光範

ほう・がんぼむ



2005年東京都立大学工学部建築学科卒業。2007年首都大学東京大学院修了。2010-12年メジロスタジオ勤務。2012-14年リライトデベロップメント勤務。2014-16年ピーツァーエアーキテクト勤務。2016年-G architects studio共同主宰。

大学院

建築構造設計演習

吉原正

よしはら・ただし



1992年早稲田大学大学院理工学研究科建設工学修了。1992-2001年三菱地所第一建築部。2001年 - 三菱地所設計構造設計部。

私 は、大阪大学大学院を修了後、鹿島建設で、建築構造、制震・モニタリング技術、リアルタイム防災技術の研究開発に取り組む一方、超高層ビルなどの大型プロジェクトの構造設計に従事してきました。そこでは、私なりに研究と実務の両面から建築構造技術を通じた社会貢献に取り組んできたつもりですが、まだまだ自分の未熟さを実感する毎日です。自然災害から人々を守る安全・安心な街づくりを目指して、皆さんと一緒に、学び、考え、そして行動していきましょう！



秋葉原UDXビル リアルタイム防災システムによりBCPを支援

社 会と密接に結び付いた建築は、さまざまな物事から学ぶことができる非常に面白い分野です。多くのことに興味を持って、主体的に建築を学んでください。そして、多くの建築を見て、その空間を体験し、感じてください。そのことによって、建築というものが自分の中で身体化されていきます。その身体化された感覚から、創造が生まれていきます。ぜひ、この自由な時間が約束された学生の間に、アグレッシブに行動し、体験し、考え、そして建築にのめり込んでいってください。応援しています。



こやまかわせみクリニック

建 築を設計することは、旅することに似ています。それぞれのタイミングにたくさんの分かれ道があり、その都度、選択しながら完成する瞬間まで進み続ける。その積み重ねが結果として、一つの（唯一の）建築に結び付いていきます。そのとき、何を拠（よりどころ）に決断をしているのかと考えると、自分自身が長い時間を掛けて育てていった価値観そのものなのだろうと思います。そんな長い旅の「道しるべ」となる経験を、学生時代にできるだけたくさん重ねてほしいと思います。



Villa SSK

1 年生を担当させていただくことになりました。僕が建築学科に入学したのは、かれこれ20年程前になりますが、学生の皆さんを通して、僕自身も当時の初期衝動のようなものに立ち返ると同時に、それを皆さんとも共有していければと思っています。建築は本当に面白い世界なので、一人でも多くの学生に建築の面白さを知ってもらえるように、皆さんと向き合っていきたいと思っています。あと、学生のうちにたくさんの良い建築を巡って、自分の糧にしてください。



長谷の客間、隣の住まい

組 織設計事務所に勤め、日々、構造設計を行っています。自動車ではAIによる自動運転技術が確立されています。構造設計にもAIの波はすぐそこまで来ており、AIで構造解析を行う取り組みがなされています。私達は仕事を奪われてしまうのでしょうか？ そうなってほしくない。人はクリエイティブな発想の設計を行い、AIに構造解析の指示を行うような近未来であってほしい。そんな未来であつたら、AIの出した答えが正しいかどうか判断できる技術者が生き残れるのではないのでしょうか。



ファラデーホールをオマージュした石神井体育館の張弦梁

MESSAGE FROM OB/OG vol.7

大学初のランドスケープでの修士設計
一都市を豊かにする自然と居場所の設計一

岩井都夢 (いわい・とむ)

学部卒業：2014年

大学院博士前期課程修了：2016年

所属研究室：山崎研究室

修士設計テーマ：久屋大道公園における環境型雨水調整施設の計画—水循環に共生する建築・インフラ・ランドスケープデザインの混成型空間の提案—

勤務先：日建設計東京支店 ランドスケープ設計部

私 はランドスケープの設計を仕事にしています。緑や水などの自然をデザインすることで、人の生活や都市全体をより面白く、豊かに過ごせる場所へとアップデートしていくことを目的としています。具体的な設計範囲は、都市全体の計画から、公園や庭園、建築足元の広場といった外部空間が対象となります。

「成長する公園」からの学び

ランドスケープを専攻するきっかけになったのは、学生時代に「ハイライン」を知り、感銘を受けたことが大きな要因となっています。ハイラインは、ニューヨークの街の中を横断しながらも隠れるように存在していた高架貨物鉄道の跡地を利用し、立体空中公園へと生まれ変わった施設です。ニューヨークの過密化した都市空間の中に生まれたこの公園は、人々の新たな活動の拠点として更新されたばかりでなく、境界の建築に変化を与え、地価を高めるなど、都市を大きく呼吸させる器官となりました。現在もハイラインは生物のように建設を続け、その範囲を広げることで街同士を繋いでいます。この学びから、建築を繋ぎ合わせるランドスケープは、都市を本質的に変えるツボになると感じました。

ランドスケープ修士設計への挑戦

「常にブルーオーシャンを探し、そこで提案を行う」という視点で、学生時代は研究を行っていました。ブルーオーシャンとは、競争相手のいない未開拓市場のことを指します。建築学科では、建築の提案を行うのが一般的ですが、単体の建築では根本的に街全体にまで影響を与えることは困難だと考えていました。そこで、ハイラインの学びから、その魅力と都市を更新する力を信じ、大

学では初となるランドスケープの修士設計に挑戦しました。もちろん、それを説得するためには、高いハードルを乗り越える必要性がありましたが、最終的には、水循環に目を向け、建築・インフラ・ランドスケープが水を要に相補的に繋がり、都市を新陳代謝させる装置の提案を行うまでに至りました。このときに熟慮の末に導いた都市に対する考え方は、社会人になった現在でも、自分のやりたい方向性を見失わないための羅針盤となっています。

社会で自分の提案を成し遂げる一言を味方にするこー

日大理工では、学期毎に設計の課題があり、課題終了時には各教師からの総評が行われる機会が設けられており、そこでは学年の最優秀作品の選出が行われます。最優秀に選ばれるためには、提案力、論理力、プレゼン能力などの総合力が要求されます。社会では、上記の能力に加え、社会を渡るための能力も必要とされます。特に「正確に日本語を使い熟す力」を入社と同時に学ぶ必要性がありました。日本語を使い熟す力とは、例えば、相手の発言の背景にあるものや、文章や会話の行間を読み説く力のことで、伝える際は、正確に伝えるための文章構築能力などが必要になります。日本語を使い熟すことは、単に敬語などを適切に使えるだけでなく、コミュニケーションのツールとしての日本語の使い方を改めて学ぶこととなります。社会人として表舞台に立ち、自分が考えたモノを提案し、つくり上げるためには必要な基礎となりますが、それ以上に言葉を使い熟すれば、自分が提案したい未来のかたちへと周りの人を説得し、巻き込むための「力強い味方」になってくれるものだと感じ、現在はその力を身に付け、磨き上げることに尽力しています。

■



社会人1年目から担当し、2019年3月に竣工した「みやこ下地島空港ターミナル」。「空港から、リゾート、はじまる。」をコンセプトに設計された、華やかな木々や水、光が響き合う豊かな自然に満ち溢れた、下地島の新しい空の玄関です。みやこ下地島空港では、空港での時間を楽しめるように、建築とランドスケープが一体となり、沖縄らしさや自然を堪能できる空間を多数設え、「人のアクティビティ」を意識し、設計しました。

2019年日本建築学会教育賞（教育業績）を今村雅樹特任教授が受賞、 2019年日本建築学会賞（論文）を羽入敏樹短大教授が受賞

今村雅樹特任教授が委員をつとめる建築トークイン上越実行委員会が、岩室の会・岩室塾実行委員会、宿泊体験交流施設月影の郷とともに、「大学連携による教育プログラム『建築トークイン上越』の企画および実践」によって「2018年日本建築学会賞（教育業績）」（主催：日本建築学会）を受賞した。この賞は、近年中に実践され、建築教育の発展に貢献した教育プログラム・教材等の業績に対して授与される。

また、羽入敏樹短大教授が、「建築空間における音場拡散の理論的枠組みと測定法に関する一連の研究」によって「2019年日本建築学会賞（論文）」を受賞した。この賞は、近年中に完成し発表された研究論文であって、学術の進歩に寄与する優れた論文に対して授与される。

他にも、山梨知彦非常勤講師が、向野聡彦氏（日建設計）とともに、「桐朋学園大学調布キャンパス1号館」によって「2019年日本建築学会賞（作品）」を受賞した。この賞は、近年中主として国内に竣工した建築の設計（庭園・インテリア、その他を含む）であって、技術・芸術の進歩に寄与する優れた作品に対して授与される。また、近藤創順非常勤講師が、瀬戸健似氏（プラスニューオフィス）とともに、「めぐみ会第一仏光こども園新園舎」によって「2019年日本建築学会作品選奨」に選ばれている。

山中新太郎准教授のグループが焼津市花沢地区ビジターセンター実施設計の受託候補者に選定

静岡県焼津市の「花沢地区ビジターセンター実施設計業務委託プロポーザル」において、横井創馬建築設計事務所＋山中新太郎准教授が受託候補者に選定された。本プロポーザルは、「焼津市花沢伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物を保存活用し、歴史的景観を保ちつつ、住民および来訪者の利便に資する花沢地区ビジターセンターを整備する」ための実施設計の公募型プロポーザルとして、5社の中から選定された。横井創馬さんは理工学部建築学科（佐藤光彦研）の出身で、構造担当の北茂紀非常勤講師も理工学研究科建築学専攻（斎藤・岡田研）の出身である。

日本建築学会作品選集2019に今村雅樹特任教授らの建築作品「熊本県医師会館」が掲載

建築雑誌増刊「作品選集2019」（日本建築学会）に、今村雅樹特任教授、今川憲英氏（TIS & Partners）の建築作品「熊本県医師会館」が掲載された。他にも、小泉雅生客員教授らの「港南区総合庁舎」、八木佐千子非常勤講師らの「鋸南町都市交流施設・道の駅 保田小学校」、近藤創順非常勤講師らの「めぐみ会第一仏光こども園新園舎」が掲載されている。本作品集は毎年の優れた建築作品を掲載するもので、今年は海外を含む全国から応募のあった374作品の中から100作品が選出された。

日本建築家協会優秀建築選100作品に今村雅樹特任教授の建築作品「熊本県医師会館」が選出

「日本建築家協会優秀建築選100作品」（主催：日本建築家協会）に、今村雅樹特任教授、今川憲英氏（TIS & Partners）の建築作品「熊本県医師会館」が選出された。他にも、小泉雅生客員教授の「港南区総合庁舎」、八木佐千子非常勤講師らの「畑中特殊バルブ工業 第四工場」「鋸南町都市交流施設・道の駅 保田小学校」、山梨知彦非常勤講師らの「長

崎県庁舎」が選出されている。「JIA日本建築大賞」「JIA優秀建築賞」「JIA優秀建築選」の応募作品195点から、大賞1点、優秀建築賞1点に次ぐ98点が選ばれた。

九州建築選2018において今村雅樹特任教授の建築作品「熊本県医師会館」が佳作作品に選出

「九州建築選2018」（主催：日本建築学会九州支部）において、今村雅樹特任教授、今川憲英氏（TIS & Partners）の建築作品「熊本県医師会館」が「佳作作品」に選出された。「建築九州賞（作品賞）」の応募作品59点から、優秀作品4点に次ぐ佳作作品9点に選ばれた。

2019照明デザイン賞において今村雅樹特任教授の建築作品「熊本県医師会館」が入賞

「2019照明デザイン賞」（主催：照明学会）において、今村雅樹特任教授、石黒竜夫氏（伊藤喜三郎建築研究所）、井谷博行氏（山田照明）の建築作品「熊本県医師会館」が「入賞」した。最優秀賞1点、優秀賞3点に次ぐ入賞3点に選ばれた。

インテリアプランニングコンペ2018において建築・生活デザイン学科の荻島紗季さんらが受賞

「インテリアプランニングコンペ2018」（主催：日本インテリアプランナー協会）において、建築・生活デザイン学科2年の荻島紗季さん（現・理工学部建築学科3年）の作品「Eternité」が「特別審査員 河村容治賞」を受賞した。また、同2年の上杉玲央君（現・理工学部建築学科3年）の「迷いの創造する形」、同1年（当時）の西野晴香さんの作品「紡ぎ」、同1年（当時）の水の上さゆなさんの作品「I choose to go to the Moon」がそれぞれ入選した。本賞は、建築・インテリアを志す若手を育成するための新たな場の創出を目的に実施されたもので、6メートル角のキューブ内に「物語るインテリア」をデザインすることがテーマとされ、応募作品237点の中から、日本インテリアプランナー協会会長賞1点に次ぐ特別審査員賞3点に選ばれた。また、入選は受賞作品13点に次ぐ32点が選ばれている。

BOOK

・古澤大輔助教の共著書（監修も担当）『アーキテクトプラス“設計周辺”を巻き込む』（ユウブックス）が刊行された。本書は、企画やリサーチ、コンサルティングといった領域でも活躍する8組の建築家へのインタビュー集で、古澤助教の他に、まちづくり工学科の落合正行助教もインタビューされている。その他に古澤助教は、前書き、巻頭鼎談を担当している。

・中島肇教授の共著書『建築物荷重指針・同解説（2015）』の英訳版“AIJ Recommendations for Loads on Buildings（2015）”（日本建築学会編、丸善）が刊行された。

・古澤大輔助教の建築作品「古澤邸」が、「新建築住宅特集」2019年5月号（新建築社）に掲載された。作品の紹介と解説に加え、論考「転じられた家／転じていく建築」も掲載されている。なお、掲載号の表紙は「古澤邸」の外観写真となっている。

NEWS & TOPICS



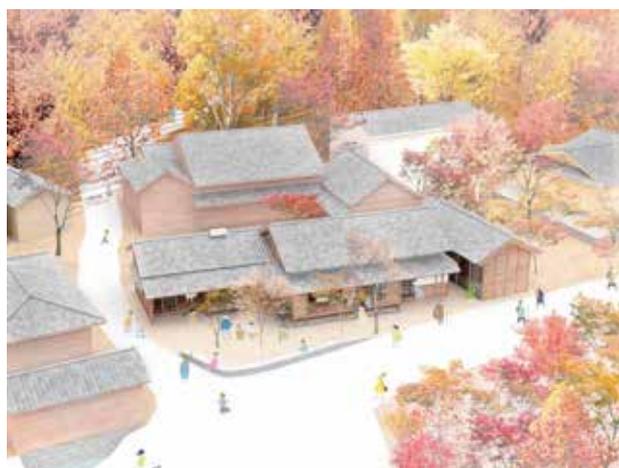
「桐朋学園大学調布キャンパス1号館」外観。 photo = 野田東徳・雁光舎



「熊本県医師会館」外観。 photo = 平井広行



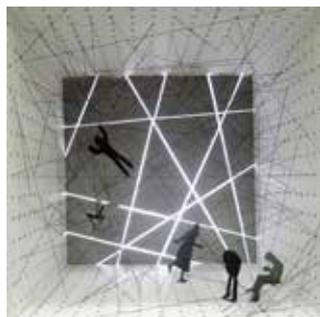
「めぐみ会第一仏光子ども園新園舎」内観。 photo = 新澤一平



「花沢地区ビジターセンター実施設計業務委託プロポーザル」において、横井創馬建築設計事務所+山中新太郎准教授が提案した施設の外観ベース。



荻島紗季さんの作品「Eternité」。



上杉玲央君の作品「迷いの創造する形」。



西野晴香さんの作品「紡ぎ」。



水上さゆさんの作品「I choose to go to the Moon」。

ARCHITECTURE & ME

[連載] 私と建築 vol.96

3年生からのめり込み、建築家へ

text=古澤大輔 助教

い つ頃から建築の道へ進もうと思ったのか、正確には覚えていません。私には歳の離れた兄がいて、本学の理工学部建築学科に進学しています。中学生になったばかりの私は、大学の課題で作成したと思われる模型や図面、建築の書物が散乱した兄の部屋を見ていました。おそらくこの体験が、私を建築の道に誘ったのでしょう。その後、兄は本学を中退し、文学の道へと転進してしまいましたが、いずれにせよ私は、建築の道を選択したのです。しかし、大学に入学したときの私は、公務員だった父の影響からか、卒業後は公務員として安定した生活を送るものと考えていました。父が働いている姿を直接見たことがなく、私は仕事というものを具体的に想像できず、漠然と捉えていました。

転機が訪れたのは、学部2年生から3年生に上がる春休みです。坂倉建築研究所というところでアルバイトをしていたのですが、そこで働いているアトリエ所員の方たちが、模型を覗き込みながら少年のように熱く建築について議論をしている姿を目の当たりにして、働くってこういうことなのか、仕事って楽しいことなんだ、と当たり前のことを認識したのです。私はこのとき、「設計」をして働く将来の自分の姿をイメージしました。私が入学した東京都立大学（現・首都大学東京）という大学は、学部入学時から製図室内に自分のスペースを与えられ、自由に使うことができました。設計課題の成績が低かった私は、夜、アルバイト

ふるさわ・だいすけ：1976年、東京都生まれ。2000年、東京都立大学工学部建築学科卒業。2002年、東京都立大学大学院博士前期課程修了。2002年、メジロスタジオ設立。2013年、リライト_Dアドバイザー。2013年～日本大学理工学部建築学科助教。

が終わると家に帰らずに製図室に泊まり込み、がむしゃらになって設計に取り組みました。製図室とアルバイト先のアトリエを往復する毎日で、家には週に1、2度帰るのみ。3年からは、ほとんど大学に暮らしていたといっても過言ではありません。

4年生になると、藤木隆男先生の研究室に所属が決まり、先生のアトリエにも泊まり込んで、たくさん図面を描きました。藤木先生は図面に大変厳しい方で、ここで受けた指導が、今の私に活かされているの言うまでもありません。その後、そのまま大学院に進学し、新しく着任された小泉雅生先生の研究室で引き続き設計に取り組みました。

卒業設計と修士設計がともに大学の最優秀賞に選ばれた私は、将来、建築家になることを決意しました。私は院を修了すると同時に設計事務所をふたりの友人と立ち上げ、実務活動をはじめました。この友人というのは馬場兼伸さんと黒川泰孝さんと、ともに本学の卒業生です。このふたりと出会うきっかけをつくり、事務所の開設を強く推して下さったのが小泉先生でした。このときの先生の助言がなければ、私はまったく違う人生を歩んでいたのかもしれない。建築家になることを決意し、実務活動をはじめてから今年で17年目。当時と変わらない熱意で今も「設計」に取り組んでいます。

【続



写真1：卒業設計「phase.3 | crematory | factory」（2000年）：原宿の街と明治神宮の森が接触する都市の境界面に計画された葬祭場の計画。駅舎と一体化した湾曲スラブや、ガラススクリーンによるスロープ動線、モニュメンタルな火葬炉などで構成される。

写真2：修士設計「roadside station」（2002年）：ニュータウンに乱立するロードサイドショップを公共的機能に転用した提案。ファミレス、ドン・キホーテ、ガソリンスタンドといった郊外の典型的な建物が、ホールや教育施設へとコンバージョンされている。写真は作成したムービーのキャプチャー画像。

写真3：「古澤邸」（2019年）：自邸。通常一体化される床と梁を分離させ、RCラーメンフレームの建築的な可能性を追求した建築。新建築社の「住宅特集」2019年5月号に掲載されている。「新建築」誌と「住宅特集」誌に掲載された作品はこれで通算24作目となった。

写真4：「下高井戸の産婦人科」（2019年）：最新作。RCラーメンフレームの可能性を模索する作業を継続している。医療施設としての性能を過不足なく満たす平面計画に対して、コンクリートフレームをずらして配置し、事後的に発生する空間の質を考察している。

Contents

02 [SPECIAL FEATURE]

食 まちを楽しみ食を楽しむ

14 [REPORT]

- ・関西研修旅行 2019
- ・短大：新入生オリエンテーション報告
- ・新任非常勤講師紹介

19 [Message from OB/OG]

- vol.07 大学初のランドスケープでの修士設計
—都市を豊かにする自然と居場所の設計—
岩井都夢 (日建設計 /2016 年修了)

20

[NEWS & TOPICS]

- ・2019 年日本建築学会教育賞(教育業績)を今村雅樹特任教授が受賞
- ・2019 年日本建築学会賞(論文)を羽入敏樹短大教授が受賞
- ・山中新太郎准教授のグループが焼津市花沢地区ビジターセンター実施設計の受託候補者に選定
ほか

22 [Architecture & Me]

- vol.96 3年生からのめり込み、建築家へ 古澤大輔 准教授

24 [Visit & Criticism]

- 学生建築探訪 vol.10 加地邸探訪記録
古澤研究室

SHUNKEN

2019 Jul. Vol.47 No.2

「駿建」

発行日：2019年7月1日

発行人：重枝豊

編集委員：佐藤慎也・橋本修・山中新太郎・田嶋和樹・

古澤大輔・道明裕毅・堀切梨奈子・山崎誠子

編集・アートディレクション：大西正紀+田中元子/mosaki

発行：東京都千代田区神田駿河台1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室

TEL：03(3259)0724

URL：http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp

※ご意見、ご感想は右記メールアドレスまで<shunken@arch.cst.nihon-u.ac.jp>

Visit & Criticism

学生建築探訪 vol.10

加地邸探訪記録

古澤研 M1：宇佐見拓朗・海上裕貴・張間国力

古澤研 4年：石田弘樹・一柳亮太郎・岩崎正人・金子綾・濱田昌城・福田一也

「加地邸」は、神奈川県葉山町の高台に建つ住宅で、**フランク・ロイド・ライト**の弟子、**遠藤新**によって設計され、1928年に竣工した建物です。遠藤が手掛けた現存する住宅の中で、最も貴重な作品として知られています。この度、4月29日・5月5日、6日の3日間 にわたって一般公開された「加地邸」(写真1)を、学生たちが見学に行ってきました。



福田：どんな住宅なのか興味を持って建物の中に入ると、まず全体的にとっても強い対称性を感じました。でも、内部を体験しはじめると、見る角度や向きによって、その対称性が揺らいでいくのが印象的でした。1階の食堂に面した外部テラスにガラスの無いサッシが入っていて、屋外なのにインテリア感があつたことも印象的でした。

金子：対称性の中に非対称性が潜んでいる空間を、僕も感じました。空間の輪郭以外の照明や暖炉の設えなどの要素が、対称性を崩しているのではないかと思います(写真2)。つまり、ディテールレベルで対称性を崩している。



一柳：確かに第一印象は、対称性ゆえに西洋的な印象を受けますが、細かいところを見ていくと、とても日本的に感じました。例えば、書院造における和室の「床の間」に近いのかも知れません。シンメトリーがありつつ、それを崩していく装置として、建築のディテールたちがあつます。

張：空間を構成する壁面に開口がいくつも穿たれているのですが、その開口を縁取るように木の枠が回されていて、これも和風の印象を与えている要因かもしれません。至るところに換気用のグリルが設けられていて、空気の通り道が確保されていました。これは、今風に言えば、サステナブルなデザインと捉えられます。その先見の空間に驚きました。

金子：でも僕は、これは換気用ではなく、例えばリスのような小さな動物たちのための通り道なのかな、と妄想しました(笑)。僕たち人間以外の主人公を想起させる、不思議な空間性も感じましたね。

岩崎：確かに(笑)。換気用にしてはつくりが妙にしっかりしているからこそ、そのような想像を呼び込むのでしょう。建築のディテールの重要性を再認識しました。

金子：照明器具のディテールも、上下の玉の大きさが異なっていて(写真3)、上下方向に対して、目に見えない境界線があるように思いました。



福田：住宅にしては部屋の気積がとても大きいだけでなく、吊り下げられた照明器具の高さが目線の高さまで落ちていて、仮想的な天井ラインが形成され、空間がヒューマンなスケールに変換されているのかもしれない。

金子：部屋によっては、その仮想天井の設定が照明器具ではなく、壁面に設けられた水平ラインによって演出されているように感じました。あと、空間の縦横比が変化に富んでいるのも特筆すべきところです。

石田：内部空間にはスキップフロアのレベル差が随所にあつて、とても起伏に富んでいました(写真4)。この建築が位置する葉山の地形と呼応している印象を受けました。



濱田：以前、見学したことのあるアドルフ・ロース設

計の「ミューラ邸」でのレベル差の空間体験に通じるものを感じました。でも、「ミューラ邸」はラウムプランという自律的な操作で、「加地邸」は地形という他律的な操作で起伏を設けている、と整理できるかもしれません。

岩崎：1階のメイン空間であるリビングには、大きな吹き抜けがありました。これは、以前に見た、ル・コルビュジエの「ジャンヌレ邸」の吹き抜けを彷彿とさせました。ライトとコルビュジエの影響関係が気になりました。

張：あの吹き抜けに面したふたつのギャラリーは、とても使いづらそうでした。なので、当時どのような用途として使われていたのか気になりました。

福田：確かにあのギャラリーの大きさでは鑑賞物は置きづらい。でも、このふたつのギャラリーが面して配置されることで、対称性が担保されていると思うので、もしかしたら使い勝手というより、この建築の全体性を獲得するために必要だった部屋なのかもしれません。



一柳：このギャラリーから吹き抜けを見下ろすと、リビングが一望できます(写真5)。もしかしたら、リビングで行われたであろう社交パーティなどのアクティビティこそが、鑑賞物なのかもしれません。その意味では、あたかもオペラハウスのバルコニー席のような、特権的な場所だと言うこともできます。

宇佐見：みんないろいろなことをあの建築から感じたようですね。ちなみに、この加地邸の近くには、坂倉準三による「旧神奈川県立近代美術館」もあります。最近リニューアルされたので、次回の加地邸内覧会と一緒に訪れるのもオススメです。

海上：同時期に葉山芸術祭も開催されていました。あのエリアでは、イベントがその他にもありそうなので、一緒に見て回るのも良いかも。やっぱり建築は、実際に見に行くことではじめてわかることがいろいろあるから、今後も積極的に見に行くようにしたいですね。

監

「駿建」では、在学生、教員、非常勤講師の皆さまからの、コンペやコンクール、学会、スポーツ大会、その他の受賞・表彰に関する情報提供を下記メールアドレスにて受け付けています。<shunken@arch.cst.nihon-u.ac.jp>